

----- ヒキガエル大発生を抑えるバスターズの取組み -----

2018年に環境保全活動を開始したボランティア団体「深川ひきがえるバスターズ」(音江地区住民など38会員)は、現在、アズマヒキガエルを対象を絞り、大発生を終息させるべく奮闘中。



↑夜間のカエル捕獲



池のオタマジャクシ除去→

バスターズが取り組んでいる ヒキガエル駆除手法

1. 毎晩 池を巡回してカエルを捕獲
2. 池への侵入をフェンスで遮る
3. カゴ罠でカエルを捕獲
4. 卵やオタマジャクシを池から出す
5. 使わない池の水を抜く

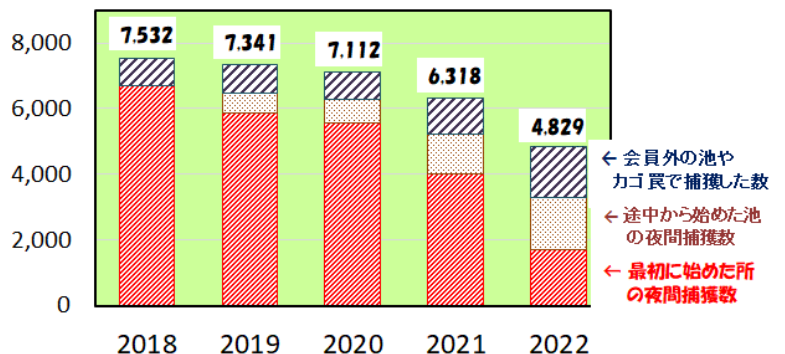
----- バスターズ 今春もヒキガエルの繁殖をほぼ阻止 -----

2022年の結果	夜間の巡回による捕獲		カゴ罠による捕獲	次世代の発生
	延べ捕獲活動人数	捕獲総数		
音江KJ池	145人	422匹	4匹	なし
音江NG池		183匹	3匹	なし
音江YN池		295匹	—	なし
国見KG池		1,060匹	35匹	なし
音江TM池	128人	308匹	14匹	なし
音江SB池		157匹	4匹	ほぼなし
音江SS池		513匹	12匹	なし
音江KF池		159匹	16匹	ほぼなし
向陽KM池	22人	182匹	17匹	なし
グリーンパーク	39人	1匹	—	なし
音江VI池	40人	6匹	—	なし
稲田貯水池	—	—	50匹	発生
秩父別4池	—	—	59匹	発生
音江MH池	—	—	171匹	なし
豊泉TH池	—	—	16匹	少し発生
広里5B池	—	—	41匹	ほぼなし
音江K2池	—	—	2匹	少し発生
音江S3池	—	—	154匹	ほぼなし
音江WB池	18人	354匹	2匹	なし
音江NP池	17人	1匹	—	なし
音江MM池	28人	290匹	239匹	なし
向陽NZ池	—	—	59匹	少し発生

事前に池にフェンスを張ったり落水をしたりして、5月の繁殖期、延べ437人の動員で毎晩のカエル捕獲を行いました。そのあと卵やオタマジャクシの捕獲も行って、ほとんどの池で、池から新たな子カエルが発生するのを防ぐことができました。

捕獲したヒキガエルの総数は、カゴ罠による捕獲や会員外の池での捕獲も合すると、4,829匹。バスターズ活動を始めて以来、同じ駆除努力を続けていますが、捕獲できるカエルの数は少しずつ減少しており、今年の総数は初年目(2018)の64%となりました。

バスターズによる5年間の総捕獲数



総数のうち初年目から取り組んでいる場所だけ捕獲数を集計すると、初年目の

25%、つまり4分の1に減少しています(棒グラフ)。1匹の寿命が長く、成体になるまで3、4年のあいだ人前に現れないヒキガエルですが、やっと生息密度が下がってきたようです。この駆除努力を続ければ、住宅地から姿を消す日も近いかもしれません。

アズマヒキガエルの基礎知識

～北海道人が持つカエルのイメージとはぜんぜん違う～

その1

通称 ヒキガエル、別名ガマガエル。西日本にいるニホンヒキガエルも種としては同じ。

その2

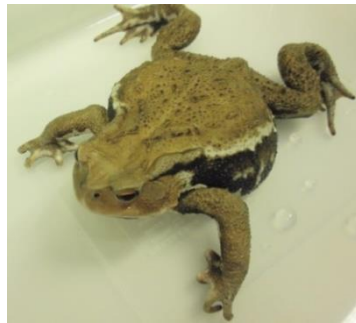
鳴き声は非常に小さい。ほとんどジャンプしない。あまり逃げないし、逃げ足も遅い。壁を登れない。

その3

産卵数は約 2,000 個。オタマジャクシは1ヵ月半で微小なカエルに変態し、3、4 年かかって大きな成体になる。

その4

強めの毒（ガマの油）を持っている。だから、ヒキガエルを捕食する天敵はほとんどいない。



その5

完全な夜行性なので、昼間はまず見つからない。

その6

人の手のひらほどの大型のカエル。体重はアマガエルの数十倍。アリ、地グモ、ミミズなど、地表で動いているものなら何でも食べて成長する。

その7

5月の繁殖期になると、自分が生まれた池に突如大集結（いわゆる蛙合戦）し、雌雄が抱接して産卵する。

その8

他のカエルと違って池や川にはいず、庭や草むらや雑木林で生活している。

アライグマの基礎知識

～北アメリカ出身の特定外来生物～

〔形態〕 イヌ科でもクマ科でもないアライグマ科の動物。顔はタヌキに似ているが、全く違う動物。目鼻立ちがはっきりし、尾の縞模様も特徴的。

体重 4～10kg、キツネやタヌキより大きい。脚の構造や歩き方が道内の野生動物とは基本的に異なり、区別は容易。木登りが得意。



Inokashira Zoo S.Maso

〔生態〕 森林、湿地、農耕地、市街地など幅広い環境に生息。夜行性。真冬に交尾し、4月ころ出産、仔はその年のうちは母親と暮らす。年1回の繁殖が基本で、3～6頭の子を生む。1頭の行動圏は、農村部では数十 ha。縄張りはないので、同じ場所に何頭もが出入りする。

〔食性〕 雑食性で果実、野菜、穀類、小哺乳類、鳥類、両生爬虫類、魚類、昆虫そのほか幅広く採食。毒のあるヒキガエルも好んで食べる。スイートコーンが特別に好きで、サクランボやブドウ、スイカ、メロンなど甘い果実も好物。

〔侵入とまん延〕 ペットとして人気が高かったが、手先が器用なため逃亡しやすく、また人に慣れにくいので捨てられることもあった。1960年代、野外に定着し始め、全国的に増え続けている。道内では2020年度に過去最高の25,806頭が捕獲された。

このパフレットは市内の町内会連合会のご理解とご協力により配布しています。